

---

# ほら、来たでしょ？

たかき統一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ほら、来たでしょ？

### 【Nコード】

N0337BA

### 【作者名】

たかき統一

### 【あらすじ】

あの夏、私が友人達とドライブに出掛けた時……。

(前書き)

これは、ある夏のお話です。

私は友人であるMとK、そしてS子と、よく4人でドライブに出掛けていました。

この日は、真夏のそれは、それは暑い日のことでした。車を路肩に止め、

「さあ、今日はどこに行こうか？」

と、いつものようにアイスを食べながら、皆で話し合いをします。

そんな時、私は……

「これから肝試してもやらないか？」

と、提案したのです。

それは怪談トンネルと言われる曰く付きの心霊スポットでした。

MとKは男性でしたので、それなりに興奮し心躍らせていましたが、唯一女性であるS子は、まったく乗る気がしません。

それでも、私はS子を説得しました。

するとS子は……

「今日お迎えが来るって」

と、訳のわからないことを言い出しました。

さらに、私がS子から訳を聞こうとした、その時！

S子は口から泡を吹き出しました。

私は……

「救急車！救急車！」

と、叫び、MとKを促します。

しかし、MとKもまた……

「今日お迎えが来るって」

と、S子と同じように訳のわからないことを言い……

その後、泡を吹き出しました。

私は戸惑っていましたが、ケータイ電話を取り出し、救急車を呼ぼうとしました。

すると、電話の向こうから……

「今日お迎えが来るって」

と、ここに居るメンバーと同じようなことを言い、電話先の相手は泡を吹いた模様でした。

私は気がどうかしてしまったのか？

と思い、助手席の窓ガラスにバンバン頭をぶつけ続けました。

すると、私達の車の横を霊枢車が1台、2台、3台。

そして、4台と猛スピードで走り抜けます。

通り過ぎた後、私以外のメンバーは目を覚まし、同時に……

「ほら、来たでしょ？」と。

そして、まだ繋がっていたケータイからも同じ声が聞えました。

「ほら、来たでしょ？」と。

(後書き)

プチ怪談です。

良かったら、感想お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0337ba/>

---

ほら、来たでしょ？

2012年1月4日06時45分発行